

# 公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

第63回新潟県公民館大会・糸魚川大会を終えて  
第63新潟県公民館大会実行委員会 事務局長 原 郁夫

4.5

- 2 トピックス 「本紙第1回編集委員会開催 後期編集内容決定」
- 3 視点 「いま、公民館に期待すること」 新潟県生涯学習協会監事 三浦百合子
- 3 ひろば 「お仲間になる人、いませんか！」 新潟市中央公民館 使用団体連絡協議会 松本 暢
- 6 実践記録シリーズ 「公民館お茶の間講座（直江津地区）」 上越市立公民館 小池 和美
- 7 サークル交流 「音色に誘われて」（三条市）／「和かな雰囲気」（阿賀野市）
- 7 素顔拝見 畑山 俊光さん（妙高市）／佐藤あや子さん（上越市）
- 8 お元気ですか 小千谷市・山崎 忠一さん
- 8 惠贈資料紹介



長善館の精神を体験します！「長善館学習塾」（燕市）

表紙解説

私塾として江戸時代から明治時代にかけて、多くの有為な人材を輩出した長善館。

この長善館の精神である郷土を愛する心や、持てる力を生かそうとする意欲を学ぶ「長善館学習塾」を、小学6年生を対象に2泊3日で開催しました。写真は中之口川でのカヌー体験です。

# 本紙第1回編集委員会開催 後期編集内容決定

今年度の第1回公民館月報編集委員会が7月6日(金)に新潟市中央公民館で開催されました。  
今年度の編集委員は次の方々です。

長谷川明寿(新任) 県生涯学習推進センター副参事
小池 和美(留任) 上越市立公民館主任
阿部 正夫(新任) 南魚沼市中央公民館長
丸山 敬(新任) 田上町公民館長
丹後 勝次(新任) 胎内市中央公民館長
船山 靖子(留任) 新潟市中央公民館嘱託
佐藤 武晴(留任) 新潟市新潟地区公民館主査
田原 理(留任) 県公運事務局長

この会議では、次のことについて意見交換をして今年度の編集内容を決定しました。

## 1 紙面構成

原則、従来どおり。  
①「お元気ですか」のコーナーは掲載開始から1年が経過した。前公民館長など公民館職員が執筆が多いので多方面から執筆をお願いしたい。

②記事にもよるが、全体に内容が固い。「素顔拝見」に多く見られる柔らかい表現で執筆をして欲しい。

③表紙は公民館事業の活動の様子がわかる写真が多くなってきて親しみやすい。

## 2 特集記事

座談会を実施して、現在の公民館の問題点を探る記事にする。

1回目 10月実施  
テーマ「今、なぜコミセンなのか」

座談会メンバー  
星野 修美(魚沼市)  
佐藤 俊夫(加茂市)  
鈴木 友夫(新潟市)

2回目 11月実施  
テーマ「公民館の未来」

2回目のメンバーは選考中。



会議の様子

来年3月号までの特集記事は次のとおりです。(予定)

9月号	「県大会を終えて」 糸魚川市大会事務局
10月号	「地域と学校」 新潟市教育委員会
11月号	「関プロ長野大会発表」 十日町市
12月号	①座談会 「今、なぜコミセンか」
1月号	②新春座談会 「公民館の未来」
2月号	「特別寄稿・長野大会を終えて」 長野県事務局長
3月号	「全国セミナー参加レポート」

また、その他の記事(表紙)「ひろば」「サークル交流」「素顔拝見」「お元気ですか」の市町村別執筆依頼予定は次のとおりです。

3月	2月	1月	12月	11月	10月	月
糸魚川市	柏崎市	佐渡市	粟島浦村	弥彦村	魚沼市	表紙
三条市	田上町	柏崎市	聖籠町	見附市	阿賀野市	ひろば
見附市	十日町市	加茂市	小千谷市	新発田市	柏崎市	サークル
新潟市	関川村	津南町	湯沢町	刈羽村	出雲崎町	サークル
加茂市	小千谷市	新発田市	柏崎市	三条市	上越市	素顔
佐渡市	阿賀野市	五泉市	上越市	長岡市	新潟市	素顔
柏崎市	五泉市	上越市	長岡市	村上市	妙高市	お元気

9月	8月	7月	6月	5月	4月
燕市	田上町	長岡市	見附市	新発田市	津南町
新潟市	小千谷市	村上市	弥彦村	加茂市	妙高市
阿賀野市	五泉市	妙高市	糸魚川市	燕市	村上市
三条市	上越市	長岡市	新潟市	上越市	長岡市
妙高市	糸魚川市	燕市	村上市	見附市	十日町市
上越市	長岡市	新潟市	胎内市	南魚沼市	魚沼市
小千谷市	見附市	佐渡市	十日町市	胎内市	燕市

注・執筆順はローテーションですが、担当が複数になることを避けて一部入れ替えがあります。また、やむを得ず複数担当が出たときはご容赦ください。執筆にご協力をお願いいたします。

(事務局 田原)

# 視点

## 「いま、公民館に期待すること」

新潟県生涯学習協会監事 三浦百合子



公民館や生涯学習センターは、私も講座を聴くなど、日頃から利用させていただいております。

公民館は、戦後、地域での社会教育を目的とする施設として発足し、学習活動や豊かな人間関係づくりへの支援をとおして、文化の向上、福祉の発展、地域づくりに大きな役割を果たしてきた歴史があります。

厳しい財政状況を背景に、各種公共施設の在り方が問われる昨今ですが、公民館でなければできない活動、例えば、少子・高齢社会、家庭・家族、生き方、環境、防災、国際関係など現代社会が抱える様々な問題をテーマに、学習活動への支援や情報提供を行い、今を生きる人々の課題を共に考え、学びを支援することが最も大事なことと思います。

他の集会所とは異なり、中核的な社会教育施設として本来の役割を発揮し、人々に必要とされ役立つ施設であってほしいと願うものです。

学習活動への支援の内容や方法については、職員の皆様方の企画・実行力が求められますが、知恵と工夫と努力で、公民館が「学びの場」として地域で息づき、これからも発展していくことを期待しております。

# H O T N E W S 掲 示 板

## 第53回関東甲信越静 公民館研究大会長野大会

今年の関プロ大会は、平成24年9月27日(木)、28日(金)に長野県・松本市で開催されます。

大会テーマは「明日の公民館を考えよう」  
～地方自治の中での人づくり・居場所づくり・地域づくり～

です。主な日程は1日目の午後からで、式典、表彰式に続いて①信州発リレーメッセージ(長野県4市町村の発表)②基調講演(松本大・白戸洋氏)が行われた後、大会旗が次期開催地新潟に引き継がれます。県公連湯浅会長が次期開催地を代表して挨拶をします。2日目は分科会(15分科会で実施)です。新潟は「これからの公民館事業評価」の分科会を担当します。

発表者：水落 久夫  
(十日町市中央公民館長)

司会者：呉井 濟  
(中越教育事務所副参事)

助言者：堀 隆行  
(中越教育事務所課長)

なお、県内からの参加者は69名です。大会の詳細は本紙11月号で紹介します。

### お仲間になる人、いませんか！

# ひろば

新潟市中央公民館 使用団体連絡協議会 松本 暢

公民館のサークルには長い間お世話になっている。偶然から協議会に加わり多くのサークルが会員の高齢化と新規加入者の伸び悩みという問題に直面している事を知った。高齢化は時の流れで抗すべきも無いが、せめて新規加入者は増やしたい。折に触れて会員募集を行ったりしているが、一番当てにしていた団塊の世代のリタイヤ組が思う様に公民館に集まらないのである。志向が変わったのか、時代が悪いのか、とちよつぱり恨む気持ちにもなる。何か策は無いかと公民館講座の中に自主企画を入れて頂

いて、お仲間を増やそうとしているが、簡単に人は集まらない。改めて公民館職員方の苦勞を追体験する事になり、試行錯誤の最中にある。悩む事も道なり、と思いつつも神や仏にすがりたい心境で、時には大声で叫びたい事もある。

誰かいませんか、お仲間になる人は…



# 大会・糸魚川大会を終えて

数年前まで根知地区公民館の館長を務めていた太田茂樹さんが立派なものをたくさん所持していることを知っていたため、思い切って電話でお願いしてみました。太田さんは恐縮しながらも、「県下各地から遠路当地に来てくれるのであれば恥ずかしい作品は見せられない。自分も公民館長という役を務めていた縁もあるのでいいものを見ていただきたい。」と二つ返事で協力してくれました。興味のない人にはただの盆栽ですが、分かる人なら「すごいものが飾ってある。」と思ったはず。実のところ、私は大会開催中この真柏が気になって仕方がなかったのです。というのも、真柏はこのレベルになると、我が子並みに可愛がっているのですごく高価になるのです。もし、ひっくり返して折ったりしたらとんでもないことになりますから、大会が終わって午後4時過ぎに引き取りの車が来た時には本当に安堵しました。

## ④表彰者記念品のヒスイの勾玉

公民館大会では毎回永年勤続表彰が行われており、副賞の記念品も開催市のオリジナルなものを送っているとのことでした。この糸魚川大会では4名の方が対象となられ、当日全員が参加されました。「ヒスイのふるさと糸魚川」といわれるこの地で記念品となれば、もうヒスイ製品しかありません。早速糸魚川産ヒスイを加工してくれる工場の社長と交渉を始めました。6月の末に3種類のサンプルを持ってきましたが、やはり勾玉が一番良い出来でしたのですぐに決定し、注文しました。勾玉は古来「魔除け」や「幸運を呼び込むもの」として珍重されたものです。表彰された方々には末長く大切にしていきたいと思います。

## 【改善へのチャレンジ】

第3回実行委員会は7月13日に開催され、参加予定者の報告と大会当日へ向けた各セクションの最終チェックをしました。また、円滑な大会運営に関する新たなシステムについて事務局から下記のような提案をいたしました。

### ①円滑な受付業務のための取り組み

大会の受付は、ブロック単位が5ブース、来賓等が3ブースの計8ブースが必要です。ところが、会場となった青海総合文化会館のロビーは構造上受付の机をセッティングする場所が狭いところしかなく、いっぺんに100人も来れば身動きもままならなくなってしまう。しかも同じ時間帯に集中してここに来る可能性があるのです。「いかにしてスムーズに参加者に大会資料を渡して客席にご案内するか？」が事務局の悩みの種となりました。私は、過去に参加したいろんなイベントの受付状況を思い出してはその解決方法を探ってみました。以外にも、その解決のヒントは大会資料にありました。「大会資料を各ブースで配ろうとするから混雑が発生するんだ。これを別のところで配ればいいんじゃないか。」と考えたのです。受付ブースは、事務局が参加者の最終報告と弁当代の清算のみ扱う場所とし、大会資料はもっといい場所で配るべきだという答えにたどり着いたのです。そこで、市町村分の大会資料は、全て各ブースから客席入口のテーブルに移動させ、会場に入る参加者に5人のスタッフで一斉に配ってもらうように配置替えしました。また、玄関先のスタッフには、「事務局さん以外は止まらずに客席の入口に向かうよう積極的に声かけして流れを作るように！」とお願いしました。このことにより、玄関先の渋滞が少しは緩和できたと思います。

### ②円滑な昼食のための取り組み

受付での渋滞解消と同時に「円滑な昼食のための仕組みづくり」が悩みの種となりました。従来通りなら、受付で弁当代を払った参加者は弁当代の引換券をもらい、昼食時には弁当代ブースに寄ってその引換券を渡して弁当代とお茶をもらって自由な場所で食べるというのが一般的です。ただ、昼食時間は正午から45分間しかなく、しかも今回は約450人が長い通路を渡って隣の建物で食べなければならないという過酷な状況なのです。「従来の食券交換方式では絶対に間に合わない。どうする？」こちらにも、過去の経験をいろいろ思い出しながらその解決方法を探ってみました。その、解決のヒントは団体旅行の食事システムにありました。以前、よく行った団体旅行で立ち寄った大きなドライブインの昼食会場に、昼食と一緒に各ツアーの名前を書いた小さな旗が立っていたのを思い出したのです。添乗員はいち早く自分のツアーの名前を探し出し、お客を誘導していました。「今回はこの方式しかない。」状況と対策を説明して実行委員会で承認してもらい、それに向けた準備作業を進めました。おかげさまで当日は12時45分のアトラクション開始までに無事全員がお弁当を食べ終えたのを見て大変感激しました。

### 【達成感と反省と】

第4回実行委員会は8月8日に開催され、大会概況の報告のほか決算見込みの報告、評価点と反省点の検証を実施しました。出席した実行委員の皆さんは総じて今年一番の大きな仕事を成功裏に終えたことについて喜びと達成感を感じているようでした。評価される点としては、一番目には目標としていた参加者数を大きく上回ったこと。二番目には式典全体が円滑に進行してスケジュールの停滞がなかったこと。三番目には解散後、駐車場を出る市外の参加者に手を振って見送ることができたこと等が挙げられた。反省する点ではあまり目立ったものはありませんでしたが、「青海自然史博物館の場所の紹介が良くできてなかったため当日の利用客が少なかったのではないかな？」とか、「受付の表示物は人だかりができると後ろからは見えなくなるので、1.5mくらいの看板立てに貼り出すようにすると良い。」などの指摘がありました。これらについては、次回のイベント開催時に参考にしたいと思います。

### 【大会を終えて】

振り返ってみると、目の回るような4カ月だったなとつくづく感じました。もともと地区公民館の改修や設計委託などがあり、普段より仕事の多い年なのに「公民館大会」がプラスになったわけですから忙しいはず。ただ、7月20日までとはにかく「早く終わってくれないかな。」だけだったのに、どうした訳か今は達成感とともに懐かしい思い出になっているのです。

『事業は人なり』＝全ては人から始まる。人が人に対して思いを込めて仕事をすれば必ず通じる、道は開ける。この言葉を今大会でも実感することになりました。大きな事業は一人ではできません。企画は作れても関わるスタッフが「その気」にならなければ成果は表れないのです。おもてなしの心を形で表したいという人達の心が一つになったからこそ今大会の成功が実現できたのです。

最後に、大会当日スタッフとして協力いただいた市内の各地区公民館長、公民館職員、生涯学習推進委員など「糸魚川大会を成功させたい。」という思いで協力いただいた全ての方々に改めて感謝申し上げ、私の報告を終わります。

# 特集

## 第63回新潟県公民館



第63回新潟県公民館大会実行委員会  
事務局長 原 郁夫

去る7月20日、糸魚川市の青海総合文化会館において63回新潟県公民館大会が開催されました。当日は天候にも恵まれ「新しい時代に対応する公民館活動の創造～地域住民とともに歩む公民館活動の在り方～」というテーマを掲げ、県内各地から公民館関係者482名の参加者を得て、大変盛況な大会となりました。当市では14年ぶり3回目の開催となりましたが、来賓各位をはじめ当日お越しいただいた方々に改めて御礼を申し上げたいと思います。

正直なところ、私自身生涯学習課に来て2年目。しかも、昨年の佐渡大会にも都合で参加できなかったことから、公民館大会の全体像を全く知らないまま準備作業に突入することになり、当初はかなりプレッシャーを感じていました。ただ、一方では「逆に何にも知らないんだから、どんなことにも臆せずチャレンジしていこう。」という開き直った部分もありました。

また、今回の大会の開催にあたって一番大切にされたことは「おもてなしの心」です。市外の参加者から糸魚川のいいところをもっと知ってもらいたい、一人でも多く当市のファンになってもらいたいという思いで準備に取り組みました。その気持ちが通じたのか、大会当日はスタッフが一生懸命「おもてなしの心」で仕事にあたってくれました。その結果として円滑な大会運営につながり、満足度の高い大会になったことが大変うれしく、また誇らしく思いました。

### 【組織・基本計画とジオパーク】

今回の大会の運営については、地元実行委員会の立ち上げから準備が始まりました。委員には中央公民館長をはじめ市内33館の公民館長の中から10名の代表者を選出してもらい、事務局には教育委員会の生涯学習課職員をあてました。

第1回実行委員会は3月30日に開催され、新潟県公民館連合会の田原事務局長さんをお迎えして、前年度の佐渡大会のおさらいと糸魚川大会の全体計画について協議しました。当日は田原事務局長さんからたくさんアドバイスをいただきましたが、その中でも大変な難かったのは、「講演会」の部分で、従来の「基調講演」ではなく、当市の特色を最大限にPRできるような「記念講演」にしてはどうかという提案でした。このアドバイスがあったからこそフォッサマグナミュージアム宮島宏館長補佐による「大地とともに生きている～ジオパークによる人づくりとまちづくり～」という講演会が実現したのです。実は、この記念講演を起点して実行委員会では、「今回は世界ジオパークを大いにPRする大会にしようじゃないか。」という流れができてきたのです。それからというもの、「これでもか!」というくらいジオパーク関連のアイデアが出てきて、当日は大会テーマがかすむくらい「糸魚川ジオパーク」が前面に出てしまいましたが、当市の「ジオパークに込めた思い」を伝えなかったという熱意の表れですのでご容赦願いたいと思います。

### 【司会者の決定と糸魚川としてのこだわり】

第2回実行委員会は6月21日に開催され、式典プログラムの構成や会場のレイアウト、来賓や表彰者・運営委員の顔ぶれ、弁当や送迎の手配、会計予算等について協

議・確認されました。また、この時、司会者について糸魚川地区公民館の加藤恵美さん(副主事)を選任したことを発表しました。式典の「よしよし悪しは司会者で決まる。」とも言われていましたので、「いい人に決まって良かった。」と内心ほっとしました。「こんな大役は初めてなので私で大丈夫でしょうか?」と不安がっていた加藤さんでしたが、その後の司会台本の読み合わせやリハーサルなど一生懸命に稽古したおかげで、当日は立派に司会の大役を果たしました。この経験とやり遂げた自信は彼女を人として一回り大きくしてくれるはずですよ。今後の一層の活躍を期待したいものです。当日は他にも弁当の清算方式の変更とジオパークをはじめとする当市の「こだわり」について事務局から下記のような提案をしました。

#### ①弁当を事前送金から当日清算方式へ変更

昨年まで、公民館大会は参加費1,500円と弁当700円の計2,200円を大会事務局へ前納する方式でした。ところが、複数の市担当者から「弁当は前もって集めるのが大変なため、これだけ大会当日に受付で清算できませんか?」という依頼がありました。自分も事務局としてその状況はよく理解できることから、県公連の田原事務局長さんをお願いして、今大会の弁当は当日清算でも可能ということで県内の各市町村に連絡させていただきました。当日は、各市町村の事務局さんの協力により会場到着前に参加者の弁当を集めてくれたおかげで、受付でも一括清算ができ、大変スムーズな会計処理となりました。

#### ②ジオパーク関連施設の1日無料招待券の発行

当市は平成21年8月にユネスコが支援する「世界ジオパーク」に日本で初めて認定されました。このことは、市民に自分の住んでいる地域を再認識し、自信と誇りを持ってもらいたいという願いと、この世界ブランドを活用して交流人口の拡大を促し、地域の活性化に結び付けて行きたいという市の方針から生まれたものです。ですから今大会のような市外からお客様が多くられるイベントにおいては、あらゆる方法で糸魚川ジオパークを紹介していかなければならないと考えています。そこで、今回の糸魚川大会では参加者全員にジオパーク関連の市有施設の1日無料招待券を配ることにしました。結果的には当日約160名の方からご利用いただきましたが、各施設を知ってもらうのが目的なら、もっと多くの参加者から利用してもらうため、有効期間を7月末まで延長する等もう少し工夫すれば良かったかなと反省しております。

#### ③明星真柏のステージ飾り



盆栽の王様と言われる「真柏」。今大会のステージには一般的な飾り花ではなく、「糸魚川開催なんだから真柏でなくちゃだめだよ。」と早い段階から考えていました。幸い、

# 実践記録

174

シリーズ

## 公民館お茶の間講座（直江津地区）

上越市立公民館 小池 和美

### ◎公民館を地域のお茶の間に

公民館お茶の間講座は、平成22年度から、直江津地区と高田地区で開催している講座です。

この講座の学習目標は、「さまざまな学習活動を通して、仲間づくりを行うとともに、地域への関心を高める」としています。

上越市立公民館では、公民館事業を「青少年教育」「家庭教育」「成人教育」「まちづくり・自治」という4分野に分類し、実施していますが、公民館お茶の間講座は「まちづくり・自治」の分野に入っている講座です。

公民館では、気軽に集まれる地域のお茶の間の存在になり、住民の交流、活動を促進するための場となるために、地域のニーズに合わせたさまざまな取り組みを行っています。「公民館お茶の間講座」は、講座名に私たち職員の思いが込められた講座といえます。

### ◎仲間づくりから、自主グループ結成へ

まず、平成22年度は、直江津地区公民館（上越市カルチャーセンター）が新潟県ダーツ支部の活動拠点となっていることから、ダーツを地域住民に広め、健康づくりに役立て仲間づくりをすすめる活動を行いました。

新潟県ダーツ支部に指導をお願いし、ダーツ初心者の方が多く集まりました。「お茶の間」という言葉を付けただけで、気軽に参加できたようです。とても良い仲間づくりがすすめられ、講座終了後は「お茶の間ダーツ愛好会」というグループが発足し、現在も週1回ダーツを楽しみながら、公民館行事で地域住民にダーツを教えたりすることもあります。公民館月報5月号（No.711）のサークル交流でも紹介していますので、ご覧ください。

次に、平成23年度は、「手作りを楽しもう！」というテーマで、冬季に3回コースで計画しました。

内容は、下記のとおりです。

- 1回目…県内産米粉を使ったみたらし団子、ドーナツかりんとう、ヨーグルトパンケーキを作って試食し、地産地消、食の安全について関心を高める。
- 2回目…障子紙や折り紙を使って、春の桜をイメージした手作りの掛け軸を作る。
- 3回目…旬の食材を使用した変わり巻き寿司、桜蒸しなど春のおもてなし料理を学ぶ。

以上、3回の短いコースでしたが、広報で募集すると、定員15人のところ、近隣在住の中高年の女性を中心に26人の応募があり、抽選を行いました。

開講式では、「出合いを大切にしたい。互いに積極的に声を掛け合しましょう。」とお話しさせていただき、講座の目的を理解していただきました。



米粉のおやつ3種を味わいながら歓談

講座は、1回目から、和気あいあいと賑やかにおやつ作りをすることができました。とても楽しかったからでしょうか、試食後、受講生の中でも元気の良い方が、講座終了後の自主グループ結成を呼びかけていました。「今日、初めて出会った仲間なのに!？」と、受講生の積極性に驚きました。

2回目は、創作活動でした。受講生が掛け軸を作っている間に、職員は大根餅を作り、お茶を用意しました。そして、完成した掛け軸を眺め、お茶を飲みながら自己紹介や、意見交換を行いました。

3回目は、おもてなし料理の実習でしたが、最後に試食しながら、受講生の1人が紙とペンを回し、自主グループへの参加希望者は氏名、連絡先を記入しました。そして、後日、公民館のロビーで、ストーブを囲みながら相談し、代表者と会計係を決め、学習計画を立てました。グループ名は、「さくらの会」とし、会の趣旨は「月1回公民館に集まり、料理を通して仲間づくりをすすめる」と決定。10人ほどのグループになりました。

こうして、また一つの新しいグループが結成されたことで、今後、活動の輪を広げ、発展していくことが期待されます。

### ◎おわりに

平成24年度のお茶の間講座も1期が終了し、9月から2期が始まります。今年度は上越市の重要課題である「中山間地の現状と課題」についても学んでいく内容です。

今後も、公民館の基本的役割である「学ぶ・集う・結ぶ」を合言葉にしながら、公民館に人が集まり、学び合い、活動を広げることで、公民館から地域の元気を発信していきたいです。

音色に誘われて

イーストグース



三条東公民館オカリナ教室  
初心者コースより生まれた、  
オカリナサークル「イースト  
グース」です。陶器で作った  
ハト形の小笛、なんとなく郷  
愁のある音、二年の初心者  
コースを卒業、石丸涼子先生  
の人柄と十二人(女十人、男  
二人)の仲間が度胸とちよっ  
とだけいい音色が出るよう  
になり、介護施設や市民音楽祭  
へ舞台のある所へ出張公演  
(?)にボランティアしてい  
るグループ。音楽に無縁に近  
い仲間が吹けば誰でも音の出  
る小笛に出合い、いつか聞い

た宗次郎の音色に誘われ深み  
に入り込み、石丸先生に毎月  
二回、愛のムチレッスンを受  
けメゲナイでこの愛する小  
笛、家庭に迷惑をかけながら  
も少しでも上を目指している  
グループです。

三条市・イーストグース  
松永 一義 記



和かな雰囲気

和か筆ペン

水原公民館主催の筆ペン教  
室に参加したのがきっかけに  
できたサークルです。毎週水  
曜日は水原公民館、土曜日は  
コミュニティセンター瓢湖憩  
の家で練習しております。書  
く事が好きな人、苦手な人、

上下手に関係なく和気藹々  
と練習しているので、サーク  
ル名を「和か筆ペン」としま  
した。

内容は、毎月講師から出さ  
れた手本を見て練習していま  
すが、その他に金封・のし紙  
に書く文字「御祝・見舞・香  
典・中元…」など沢山の字も  
練習します。つい肩や手首に  
力が入ってしまい疲れるの  
で、後半はコピータイムで  
楽しい会話が弾み情報交換の  
場となっております。

夏休みには、小学生数人も  
参加して硬筆の練習をしてい  
ます。自分の名前も上手にな  
りました。



阿賀野市・和か筆ペン  
小林 宏美 記

今年度、人事異動で生涯学習課に配属となつた畑山さんを紹介します。

畑山さんは、主に青少年育成の分野の業務を担当してもらっています。普段は物静かで、黙々と仕事をしている彼ですが、酒の席になると終始笑顔で陽気になるその変身ぶりにびっくりしています。



妙高市生涯学習課  
主査 畑山 俊光さん

宴席での圧倒的な存在感を少しだけ普段の仕事の場で発揮してもらい、当課のエースとしてより一層業務に取り組んでくれることに期待しております。

(妙高市生涯学習課 竹内 正則 記)

上越市名立地区公民館職員の佐藤協力員を紹介します。

佐藤さんは、新潟県旧松代町生まれで、名立へ来られて今年で10年目になります。名立地区館の協力員さんになられて今年で2年目になります。

公民館北分館に席をおき、地区館女性学級や分館講座の事業運営に協力をいただいて日々地区住民のみなさんと交流も深めていることから、住民からの信頼も厚



上越市名立地区公民館  
協力員 佐藤あや子さん

いものがあると確信しています。またパソコンが得意でいつも工夫を凝らしたチラシを作成したり、住民と一緒に各種講座に参加する姿勢には感心させられます。今後もその人柄と才能で名立地区館活動がますます盛り上がる立役者になることに私も期待しています。

(上越市教育委員会名立区分室 主任 齋藤 文雄 記)



# お元気ですか



山崎 忠一 (小千谷市)

只今お陰様にて、元気で暮らしておりますのでご安心ください。

中越地震の年は腎臓がん。翌年は食道がん。そして次の年は男でも乳がんの疑いありとなり、この三年間は「三途の川」を渡ってみたり、また戻されたりの毎日。

幸い生命があり、病気になって初めて知る健康のありがたさ。

これからは病氣と仲良くして「浄土の世界」に行くまで、頑張っ  
て人のため世のため少しでも役立つよう努力したいと思っています。

## information

平成24年度中越地区、下越地区公民館職員研修会が下記により開催されました。

〈中越地区〉研修テーマ「元気な地域社会を創造していく公民館をめざして」～「むすぶ」役割を生かした公民館運営～

- 1 期日 平成24年9月11日(火)
- 2 会場 見附市中央公民館
- 3 内容 ①講演 (県生涯学習推進センター 諏訪部寛榮氏)  
②演習 明日から生かせる実習演習
- 4 問い合わせ 中越地区公民館連絡協議会 事務局 担当:呉井 済  
電話0258-38-2652

〈下越地区〉研修テーマ「地域課題と向き合い、地域と共に歩む公民館をめざして」～社会・地域を切り拓く公民館をめざして～

- 1 期日 平成24年9月6日(木)
- 2 会場 新発田市生涯学習センター
- 3 内容 ①講義(県生涯学習推進センター 諏訪部寛榮氏 田邊 寿夫氏)
- 4 問い合わせ 下越地区公民館連絡協議会 事務局 担当:武石 由紀  
電話026-231-8361

## お詫びと訂正

本紙8月号の新潟県道路整備協会の広告において掲載いたしました、国土交通省の平成24年度「道路ふれあい月間」推進標語の作者氏名に誤りがありました。ここに訂正いたしますとともに、謹んでお詫び申し上げます。新潟県道路整備協会 (誤) 大矢祐介さん (正) 大矢裕介さん

## 恵贈資料紹介

### ○成人(中高年等)の地域への参画を促す学習プログラムの開発に関する調査研究報告書

発行 国立教育政策研究所・社会教育実践研究センター



同研究所・センターが「成人の学習」に焦点を当て、特に40代、50代の「アラフォー」「アラフエ」といわれる中高年層を想定した学習プログラムの開発について調査研究をした結果をまとめてあります。153ページにわたる資料の中に本県上越市の事業が4ページ紹介されています。この年代は、学習の必要性は認識していても働く年代で事業設定がしにくいなどの理由から各公民館で対応を苦慮している現状があります。全国の先進的な事例が紹介されているので来年度の事業計画に役立つ報告書です。

#### 問い合わせ

新潟県公民館連合会事務局  
新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107  
電話 025-266-7711

### ○つながりが創る豊かな家庭教育 ～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～

発行 家庭教育支援の推進に関する検討委員会



文部科学省が設置・委託した同委員会が、家庭教育の支援策についてまとめた冊子です。現在、家庭と子どもの育ちをめぐる支援は重要な社会的課題になっています。冊子では93ページにわたって、①現状と課題 ②家庭教育支援のあり方 ③家庭教育支援の方策 ④国と地方自治体の役割について述べています。データ集はカラーで示されてわかりやすく工夫されています。8月29日県自治会館で行われた「県地域家庭教育推進協議会」の会議資料として活用されました。

#### 問い合わせ

新潟県教育庁生涯学習推進課  
青少年家庭教育係 担当:青木  
電話 025-280-5617 (直通)

# 農業・農村が 日々の生活を支えています

農業・農村は、安全・安心な食料を安定的に供給するとともに、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的な機能を有しています。

本県農業・農村振興の取り組みに対する県民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

新潟県市町村農業農村振興対策協議会  
会長 (村上市長) 大 滝 平 正

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内  
TEL 025 (285) 0041 FAX 025 (285) 1609

## あ と が き

事務局長のつぶやき  
猛烈残雪お見舞い申し上げます。私  
が短くすくすくも雪い夏が長く秋  
思いがけなない積雪がありました。また、  
雪で車が埋まり救助車が出動したの  
は一昨年のことですが、このふんでは  
3年続けて同じ現象が今冬も起きる

のではありませんかと案じています。私の  
一番の心配事は、朝、車庫前の除雪  
をしなればならないこと。昨年は山  
1時間作業を5、6回やりました。山  
間地の除雪の苦勞に比べればへ見た  
いなものです。後期の事業展開も雪い中奮闘され  
ていることと思えます。心身共に夏  
の疲れがたまってきている次期、どうぞそ  
体調管理にご留意ください。(田原)